



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2021

5月28日号

182
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8157 福島市蓬萊町七丁目13番5号 TEL/FAX 024(529)7238

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

新 考 古 覧



副会長 大和田 重 義

昨年4月、当院で相馬市の発熱外来が始まった頃、来年には通常に戻っていて欲しいなと期待しておりましたが、残念ながら現在では第4波となり、まん延防止等重点措置そして3度目の緊急事態宣言、変異株の出現等に置き換わりつつある新型コロナウイルス感染が全国的に拡大傾向にある今日、会員の皆様には通常業務外の様々な対応が要求され、ご苦慮されていることと思います。10年前の東日本大震災、本年2月の福島県沖地震と最近の余震と思われる地震など、自然災害や目に見えないウイルスに心労は絶えません。

自分のようなアナログ時代から関わってきた放射線技師が技術進歩の変遷を振り返ると、30年以上前にフィルム感度を半分に下げ増感紙感度を上げたInsightシステムが日本に入ってきた時の血管撮影のフィルムを見たときには感動を覚えました。同じような衝撃をFPDの画像を見たときにも感じました。それらの技術が世界に普及していきました。自施設には、FPD一体型ポータブル装置DRX-Revolution Mobile X-Rayシステムがあります。これは2011年大震災の際にバックアップで用意しておいたアナログ手現像での対応が必要だった代替策として設置しました。日本での販売は2016年3月で終了していますが、このポータブルのプラットフォームなどの開発には、アメリカの放射線技師の意見が多く取り入れられ開発されたと伺いました。

普及進歩と言え、何と云ってもCT検査ではないでしょうか。single energy CTからdual energy CT、定量的な画像情報を提供する4Dイメージングなど、空間分解能や時間分解能の向上によって新たな時代へと進んできており、最近では施設装置間の格差を痛感しております。CT検査の汎用性、簡便性からCT検査の件数はますます増加傾向にあり臨床では欠かすことのできない検査となっております。1断面ごとReadyを押しStartボタンを押していた放射線技師になりたての時代が嘘のようです。調べ物をしていたら、木村和衛先生の「断層映像研究会の歴史と役割(4)」(2002年)を目にすることができました。「科学の進歩は今まで知られていなかったことの現象の発見や新しい物の発明によって、それを社会に役立つまでに普及させることに意義がある」と述べられています。その中で、CTの歴史についても述べられていました。CTが開発される20年以上も前に二本松市出身の高橋信次先生による「エックス線回転横断撮影の開拓」と「1969年の横断撮影図譜」があり、その後のコンピュータ技術の発達によってCTに繋がった。そしてMRIが台頭してきた時代に、福島県立医大等のCTグループの大先輩方々の寝台を動かすHelical CTと、東芝の研究グループによるスリッピング方式の開発があってこそMDCTへとつながり、世界に役立つまで普及してきました。今日のCT技術の発展へ導いてくれたのは、新しい技術を確立していただいた福島県人の諸先生方々の偉大さに、尊敬の念を抱いております。

自分が役員を担当してみても至らぬ点が多々あり、執行部のご指導の下なんとか進んで参りました。「医師の働き方改革及びタスク・シフト/シェア」に関する医療法等改正案が行われる可能性が高い状況です。今後も新型コロナウイルスの影響が続く中で大変な時代が続きそうですが、技師会活動にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

福島県立医科大学 ● 保健科学部診療放射線科学科だより ●

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、こんにちは。新年度が始まりましたが、そろそろ落ち着いてきた頃だと思います。何となく地震が頻発しているのが気になりますが、如何お過ごしでしょうか？

私どもは、この4月1日ようやく保健科学部診療放射線科学科を開設することができました。5年に渡って準備を進めて参りましたが、この日を迎えることができ本当に嬉しく思っております。これまでの先生方のご協力に深謝申し上げます。今回は写真が多くなってしまいましたが、私どもの新しい校舎を少しですがご体感いただけたものと思っております。

新たに保健科学部診療放射線科学科だよりとしてスペースをいただくこととなりましたので、本稿では4月から今までの状況についてご説明できればと思っております。

●令和3年度入学試験実施状況

これは、全国の診療放射線技師養成施設が加入する全国診療放射線技師教育施設協議会にて毎年行っている入学試験実施状況の調査に、本学が回答した内容です。

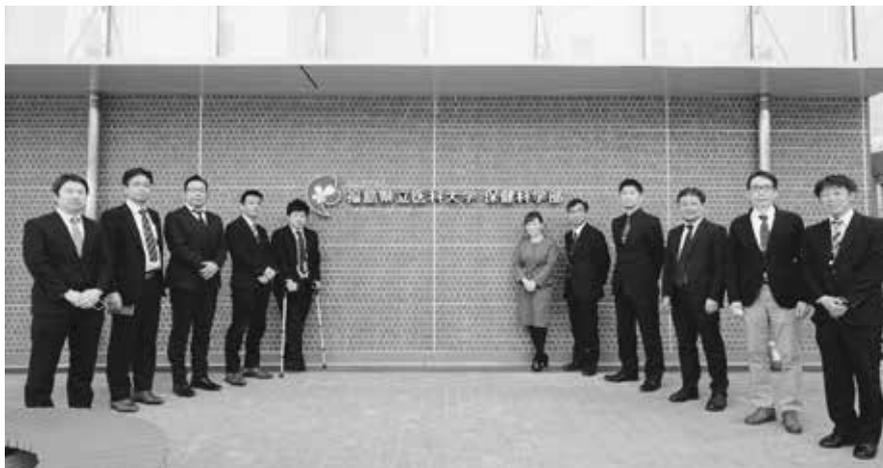
	定員	願書受付者数			受験者数			合格者数			入学者数			入学者数の内訳								合格倍率	入学率	備考				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	短大卒	短大卒	大学卒	大学卒	大卒	その他	大卒	その他							
一般選抜	15	56	62	118	56	61	117	8	7	15	8	7	15	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.8	100.0	
推薦選抜	10	10	16	26	10	16	26	3	7	10	3	7	10	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	100.0	

(注) (*1)短大卒:短大卒、高等専門学校卒 (*2)大学卒:大学卒、大学院卒 (*3)合格倍率=受験者数/合格者数 (*4)入学率=入学者数/合格者数×100

施設協議会では、全国の情報をお集めて会員に提供しております。本年度より我々も会員となりましたので、今後は各校の状況を見ることができるようになります。本表をご覧くださいとわかります通り、1期生は男性11名、女性14名となりました。県内出身者は、この中の6割程度でした。

●教員の着任

令和3年度に新たに5名の教員が診療放射線科学科専任教員として着任し、現在は全部で11名となっております。最終的には15名となりますので、あともう一息というところです。新たに着任された先生は、長谷川功紀教授、三輪建太教授、佐藤久志准教授、五月女康作准教授、山品博子講師です。写真は、新校舎北側玄関横の保健科学部のサインの前で4月1日に撮影したもので、向かって左より加藤教授、佐藤准教授、三輪教授、福田准教授、山尾助手、右へ移って山品講師、久保教授、五月女准教授、長谷川教授、高橋教授、田代助教です。まず本年度は、この11名で運営を進めて参ります。今後、本稿で新たに着任された先生方のご紹介をさせていただければと思っております。



●入学式

入学式は令和3年4月7日に、福島県文化センターにて挙行されました。医学部、看護学部とともに初めての3学部での入学式となりました。新型コロナウイルス感染拡大のために入学者と大学関係者のみでの開催ではありましたが、実際に皆が集まって実施できたのはとても良かったと思っております。



●学科オリエンテーション

学生は、入学式翌日より大学、学部、そして学科オリエンテーションを受けるところから大学生活が始まりました。校舎を歩く学生を見ていると、入学したばかりで誰が誰だかわからず、真新しい校舎でどこがどうなっているかもわからない中での大学生活の始まりによる緊張と戸惑い、そして初々しさが伝わってきます。写真は、診療放射線科学科のオリエンテーション時の風景です。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、座席を一つずつ空けて着席しています。学生及び教員の自己紹介で始まり、今後4年間で学ぶカリキュラムや学生生活のこと、国家試験や就職・進学のこと、新型コロナウイルス感染拡大のことなどを、一つ一つ説明していきました。なかなか一度に全てのことを理解するのは難しいと思いますが、少しでも学生皆さんに理解していただいて学生生活をスムーズに送ることができれば良いなと思っております。



●講義の開始

4月9日から早速、講義が始まりました。最初は「修学基礎セミナー」という集中講義で、大学生として学ぶ前に考えておくべき事項をオムニバス形式で学ぶものです。その次は「臨床技術基礎演習」で、医療技術者として知っておくべき基礎的事項として以下のような内容の演習(実習)を行いました。1) 医療接遇、2) 高齢者や障がい者、妊婦の特性を体験する、3) バイタルサイン(体温、血圧、脈拍、呼吸数)を学ぶ、4) 患者移動法を知る、5) 清潔・不潔の概念とルール、6) 感染制御(手洗いおよび手指消毒)、7) 心

電図の計測法と見方、8) 応急手当。これらの項目を各学科で担当し、学生は4学科の学生全員が必修科目として受講し、4学科混合でグループを組んで各項目について学んでいきました。診療放射線科学科の教員は8) 応急手当を担当しましたが、これは消防署が行う普通救命講習Ⅰの内容としており、学生は普通救命講習Ⅰの受講証を得られるようになっております。学生がこのように受講証を得ることができるようにするため、担当する我々は応急手当普及員の資格を得てから担当いたしました。写真は、応急手当を行っているところを模したもので、パンフレットなどの掲載用に撮影しているところを撮影したものです。



学生のアンケートでは、本演習を行うことで医療人になるという心構えを改めて持つ良い機会となった、他学科の人と交流できた、貴重な体験ができた、医療体験ツアーのようで楽しかった、設備が良かった、等の感想がありました。概ね好評だったと感じますが、是非、先生方には今の学生はこのような内容を学生の時に学んでいる、ということを知っていただければと思います。例えば清潔・不潔の概念ではガウンテクニックを学んでいますし、患者移動法では車椅子やストレッチャーの使い方を学びました。入学早々でなかなかピンとは来ないとは思いますが、医療接遇の講義も入っています。本学における、実践的な教育の一つと捉えていただければ幸いです。

●X線CT装置の設置

福島駅前キャンパスにおける実験実習用教育器材の中の初めてのX線装置として、X線CT装置の設置が4月10日から行われ、19日からアプリケーション等のトレーニングが行われました。装置はシーメンス社製のSOMATOM go.Topで64列の検出器を持ち、twinbeam dual energyが可能なシステムです。写真は搬入のためにクレーンでつり上げているところと、設置された後で学生をモデルにして実習風景を撮影したものです。撮影実習用全身ファントムが、寝台上に寝ています。最新の装置ですので、患者ポジショニングをサポートする3Dカメラや、遠隔操作できるタブレット端末などもついています。また、この部屋には放射線治療計画用のレーザーも設置されていますので、放射線治療計画用CTの撮影実習なども行うことが可能です。



以上のように、まずは4月1日に無事開設したことをご報告いたします。また、1ヶ月ほど経過しましたが診療放射線科学科1期生の25名は元気に通学してくれていて、少しずつではありますが大学生活に馴染んできてくれていると思います。今後、彼らと共に福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科を構築していきます。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

～会長 「オンレコ」～

1 「JART会費のカード引き落とし」

クレジットカードでの自動引き落としが可能となりました。早速、私もJARTホームページから登録を行いました。簡単ですので、皆さんもぜひ登録してください。なお、会費納入は9月末までですが、早めの納入をお願いします。

2 「第10回定時総会」

今年度も紙面上採決を行います。また、役員改選もありますので立候補者への投票を宜しく願いいたします。選挙告示も県ホームページに掲載しました。役員立候補届や役員推薦届も県ホーム

ページよりダウンロードしてお使いください。

3 「福島県立医科大学保健科学部の開校式」

4月3日(土)に開校式があり、会長として出席しました。式典後は、久保教授に校内見学をさせていただきました。これからも良い関係を築いて行きたいと考えます。

4 「役員改選により合同委員会」

通常は、各委員会の委員が合同で集まり、顔合わせや活動方針を決めていました。今年度は、各委員会でのWeb開催を予定しています。

地区だより

浜通地区

「第35回いわき地区画像研究会」開催

令和3年4月2日にいわき地区画像研究会が開催されました。今回はコロナ禍のため、集まる事が出来ずWebにて行われ「いわき市内各施設におけるCOVID-19の対応について」と題し、かしま病院、常磐病院、福島労災病院、いわき市医療センターの施設でのCOVID-19の撮影で感染を広げない工夫などを発表していただき、とても勉強になりました。また、Webによる初めての研究会でしたが、大きなトラブルもなく無事に終了しました。

施設によるクラスターが次々と発生し大変な時期かと思いますが、皆さん頑張ってください。

(菅原)

「令和2年度浜通り地区協議会全体会」開催

令和3年4月21日18時より令和2年度浜通り地区協議会全体会が開催されました。今回も新型コロナウイルス感染拡大防止のため全体会は書面表決により成立し、県技師会が提供する法人版Webexを使用し、運営委員による書面表決開催結果報告、花井委員長の挨拶がありました。今回の全体会では役員改選があり、新委員長にいわき市医療センターの名城さんが選出されました。

今年度もWebexを利用し、会議・勉強会などが多数開かれると思いますが、会員の皆様が戸惑いなく利用できる情報を提供する必要性を感じました。

(大井)

会津地区

「令和3年度会津地区協議会全体会」開催

令和3年4月25日(日)、ホテルニューパレスにて行われました。昨年度同様に、会津画像研究会は開催せず、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、会の規模を縮小して全体会のみとなりました。

た。全体会は3密を避け、会場入り口での手指消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスを保って行われました。また事前に、会員は可能な限り委任状での参加が案内されたため、出席者は10名となりました。(委任状提出者は66名で定足数は満たされていません。)役員改選による令和3・4年度の地区協議会委員も承認され、議事は、滞りなく全て承認されました。今年度こそはコロナが収束し、多くの事業が開催されることを願います。



(板橋)

編集後記

新年度が始まり2ヶ月が経ちましたが、歓迎会やイベントの中止、緊急事態宣言、学校の休校、GW(我慢ウィーク)、緊急事態の延長、など目まぐるしく変わる状況の中、そこに医療従事者としての立場がプラスされ、不安やストレスが蓄積されていく日々が続いています。

この文章を昨年5月発行の編集後記に掲載しました。あれから一年が経過し、第4波の真っ只中。特に会津での流行が止まらず、県内の病床使用率は今月9日に初めて8割を超え、危機的な状況が続いています。そのような中、医療従事者や高齢者のワクチン接種が始まり、まだまだ小さい光ではありますが、先に明かりが見えていると信じて、日々の業務を頑張ってください。

(風間)